

平成20年度障害者保健福祉推進事業
(障害者自立支援調査研究プロジェクト)

ひとを活かす・ものを活かす

高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際
特例子会社や就労継続支援A型移行と地域、行政、企業との連帯を考える

報 告 書

社会福祉法人にんじん舎の会

平成20年度障害者自立支援調査研究プロジェクト報告書目次

○はじめに _____ 1

・工賃向上 稼げない訳を考えよう

小作連会員アンケート 授産事業支援センター調査	課題は そして プロジェクトの方向性は	仕事場モデル作成委員会
----------------------------	------------------------	-------------

- 1 郡山市小規模作業所等連絡協議会学習会聞き取りで述べられたこと
 - ①工賃アップを阻害していると思う問題点は
- 2 郡山市授産事業支援センター「景気悪化にともなう障がい福祉サービス事業所等実態調査」
 - ①景気悪化に影響があった具体例
 - ②影響が特になかった具体例
 - ③高工賃を支給できる仕事のヒントを
- 3 「ひとを活かす・ものを活かす 高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際 特例子会社や就労継続支援A型と地域・行政・企業との連帯を考える」このプロジェクトの進め方
 - ①現状の分析と仕事場モデル作成委員会の設置
 - ②プロジェクト内容の骨子
 - ③仕事場モデル委員会での確認事項

○ものを活かす _____ 3

・食品残渣を活かした循環型養鶏
・食廃油を活かしたBDF燃料製造
・廃棄有機物を活かした土づくり農業

事業視点は	課題は	カギを握るものを分析 技術のつぼ 自己チェックシステム
-------	-----	-----------------------------------

- 1 仕事場モデル作成委員会での検討事項
 - ①ものを活かす取り組みの考え方と進め方
 - ②具体的に取り組むなかみと進め方
- 2 「高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際」に向け取り組みの中から学んだこと
 - ①基本的な考え方
 - ②ものを活かすために、にんじん舎の例で考えれば
 - ③これからの取り組みのために

○ひとを活かす _____ 6

・適材適所、仕事の責任
・仕事の構造化と工程化

この仕事の良さ（強味）は	課題は	仕事の構造化、工程化 経営スキルアップ研修 ジョブコーチ研修
--------------	-----	--------------------------------------

- 1 仕事場モデル作成委員会での検討事項
 - ①ひとを活かす取り組みの考え方(法人理念)と進め方
 - ②具体的に取り組むなかみと進め方

○高工賃を支給するために _____ 7

・私たちの将来構想（事業計画）「もったいないSプロジェクト」

人を活かす ものを活かす 確かな実践を	提案1000羽養鶏を軸に 地産地消 地域密着 農商工連携	行政委託・企業支援 食品リサイクル法 再生利用業者
---------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------

- 1 仕事場モデル作成委員会での検討事項
 - ①高工賃を支給するための考え方と取り組みの内容(もったいないSプロジェクト)
 - ②具体的に取り組むなかみと進め方
- 2 「高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際」に向け取り組みから学んだこと
 - ①ふくしま環境エネルギーフェアへの参加
 - ②研修報告会の実施

○はじめに

・工賃向上 稼げない訳を考えよう

小作連会員学習会 市授産事業支援センター 調査	仕事場モデル作成委員会	委員会で方向性の確認 担当提案各項目内容の取り組み
-------------------------------	-------------	------------------------------

1 郡山市小規模作業所等連絡協議会学習会（08/11/19）聞き取りで述べられたこと

①工賃アップを阻害していると思う問題点は

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職員の技量の問題 ・不景気 ・利用者の意識の問題 ・施設設備の問題 ・販路の問題 ・商品やサービスそのものの問題 ・付加価値商品の開発 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識の問題 ・利用者の技量の問題 ・事務量の問題 ・組織全体のビジョンの問題 ・みんなの頑張り ・取引先との意識の違い（お客様ニーズとのずれ） ・下請け作業工賃単価が低い |
|--|---|

2 郡山市授産事業支援センター「景気悪化にともなう障がい福祉サービス事業所等状況調査」

①景気悪化に影響があった具体例

- ・資源回収の仕入れ単価が半減し、工賃に影響があった
- ・自動車部品関係の下請けがストップした。
- ・建築部品の受注が半減した。
- ・箱折り、弱電関係の受注が半減した。
- ・下請けの受注量が全体的に減または、ストップした。
- ・車の部品や精密機械を入れる段ボール組み立ての仕事が、急激に減少した。
- ・下請けの仕事を出してくれる先が倒産した。
- ・授産製品の販売数量が減っている。
- ・請負単価がさがった。
- ・振興会年間販売売り上げは30%減収だった。

②影響が特になかった具体例

- ・新たな仕事を取り入れた。
- ・景気に影響されない業者の仕事だった。しかし今後は不安はある。
- ・自主製品を作成するなかでは、特に景気悪化の影響はない。

③高工賃を支給できる仕事のヒントを

今、私たちを取りまく現状は、この不況の中、大変厳しいものがある。下請け作業に取りくむ作業所は仕事がこなくなり、請負単価も低くおさえられ、工賃の支給に苦勞している。商品をつくり販売する作業所も、商品の質の問題、量の問題で伸び悩んでいる。自分たちだけで全ての問題を解決するのではなく、地域の中で農商工の技と連携しながら問題を考え解決することが求められている。

3 「ひとを活かす・ものを活かす 高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際
特例子会社や就労継続支援A型と地域・行政・企業との連帯を考える」
このプロジェクトの進め方

①現状の分析と仕事場モデル作成委員会

- ・下請け仕事からの脱却←アイデアしだいで企業を支援する立場
- ・地域、行政、企業と対等な関係で取り組む仕事（商品、サービス）の開発←自分たちは自立しているという前提での事業企画
- ・にんじん舎の取り組みや提案を、専門家で構成された仕事場モデル作成委員会の助言指導で修正

荒川市郎	農業機械学会員	菅野覚	中小企業診断士
渡辺千春	技術士（農業部門）	佐藤和也	元BDF製造者
矢口弘子	獣医師	鈴木康弘	第1号職場適応援助者

・仕事場モデル作成委員会には社会福祉法人にんじん舎の会職員も参加

②プロジェクト内容の骨子

○ものを活かす

- ・食品残渣を活かした循環型養鶏
- ・食廃油を活かしたBDF燃料製造
- ・廃棄有機物を活かした土づくり農業

事業視点は	課題は	カギを握るものを分析 技術のつぼ 自己チェックシステム	成分分析と結果から見えるもの 技術のつぼ学習会 自己チェックとガイドライン作成
-------	-----	-----------------------------------	---

○ひとを活かす

- ・適材適所、仕事の責任
- ・仕事の構造化と工程化

この仕事の良さは この仕事の強味は	課題は	仕事の構造化 工程化 経営スキルアップ研修 ジョブコーチ研修	作業場の構造化 作業工程表 作業配置
----------------------	-----	--------------------------------------	--------------------------

○高工賃を支給するために

- ・私たちの将来構想（事業計画）「もったいないSプロジェクト」

人を活かす ものを活かす 確かな実践を	提案 1000羽養鶏を軸に 地産地消 地域密着 農商工連携	行政委託・企業支援 食品リサイクル法 再生利用業者	環境エネルギーフェア 研修報告会 報告書
-------------------------------	---	-------------------------------------	--------------------------------

③仕事場モデル作成委員会での確認事項

- ・事業の目的、計画と仕事場モデル作成委員会の位置づけと進め方検討確認
事業の目的を達成するためのプロジェクトの骨子は、大筋の計画に問題なし。
高工賃を支払うために必要なことをさぐり、担当提案で各項目ごとの取り組みを進めていった。

プロジェクトの具体的内容	担当委員名
ものを活かす 成分分析	佐藤委員
ものを活かす 養鶏技術 農業技術 BDF技術	荒川、矢口委員
ひとを活かす 工程分析と構造化	鈴木委員
高工賃を支給するために 環境エネルギーフェア 研修報告会	渡辺、菅野委員

- ・目的達成のために具体的に取り組むなかみと進め方の検討確認

委員会	検討内容	開催日
第1回委員会	取り組みの方向づくりと計画立案 (報告書の作成、報告会の開催)	2008 10/16
第2回委員会	ものを活かす取り組み (技術のつぼ学習、成分分析とガイドライン、自己チェックシステム)	2009 1/20
第3回委員会	ひとを活かす取り組み (仕事場の構造化、仕事の工程化とオペレーションマニュアル)	2009 1/22
第4回委員会	高工賃を支給するために (企業、行政との連携、研修報告会)	2009 1/25

○ものを活かす

- ・食品残渣を活かした循環型養鶏
- ・食廃油を活かしたBDF燃料製造
- ・廃棄有機物を活かした土づくり農業

事業視点は 3R	課題は ばらつき	カギを握るものを分析 技術のつぼ 自己チェックシステム	成分分析と結果から見えてくるもの 技術のつぼ学習会 自己チェックとガイドライン作成
-------------	-------------	-----------------------------------	---

1 仕事場モデル作成委員会での検討事項

①ものを活かす取り組みの考え方と進め方

売れない商品→改善の←にんじん舎の取り組みの実際モデルで課題にせまる。
 商品の質を知る→技術のつぼを学ぶ←にんじん舎の取り組みで課題にせまる。
 それらを通して
この商品の何が課題なのか把握し、それを知るために「分析」し、課題解決を学ぶ「技術のつぼ」
そのつぼをはずさないために、自己チェックシステムを確立するという手順で進めていった。

②具体的に取り組むなかみと進め方

成分分析→にんじん舎の商品品質のなにが問題かによって分析対象、内容が決まる
 技術のつぼ学習→にんじん舎の商品品質のなにが問題なのか、分析した結果にてらし学ぶ
 自己チェックシステムの確立→分析、学習からつぼを自己チェックするシステムをつくる

○分析対象の絞り出し

↓ 農場土壌／発酵飼料／鶏糞肥料／BDF燃料／BDF処理済排水
 分析内容項目の決定
 ↓ 一般的項目／商品として一般項目／課題を解決するための項目
 検体の条件状況と数

○技術のつぼ学習会

養鶏技術／竹内哲氏 まぐろの頭による発酵飼料づくりと機能性卵（DHA）の生産
 県養鶏分場職員 会津地鶏の産卵率向上に関する研究から助言
 土壌肥料技術／県農業センター職員 特殊肥料製造業許可担当職として製品の視点で助言
 県農業センター職員 土壌と肥料の関係から必要な成分を高める視点で助言
 BDF製造技術／富樫千之氏 分析結果を中心にJAS規格案への対応

○自己チェックシステムの構築

課題のあぶり出し→成分分析→課題の再検討→技術のつぼ→改善すべき事項→自己チェック

2 「高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際」に向け取り組みの中から学んだこと

①基本的な考え方

- ・捨てられるものを活かすというコンセプト
 理念（ひとを活かす、ものを活かす）であると同時に、高工賃を支給するためには利益を上げる。そのためには収益をあげることとあわせ、捨てられるものを活かすことで、コストをさげるといった視点がある。
- ・捨てられるものを活かすうえでの問題点
 廃棄物（原料等）質、量が安定しないと、一定の質の商品にならない。循環する（入る・鶏が食べる、作業で使う・生産された商品が売れる、使われる）仕組みと量のバランスを保つことが必要である。
- ・捨てられるものを活かすキーワード
 捨てられるものだから3級品ではない。確かな技術とてまひまをかけることで、ストーリーのある大切な必要な1級品を創り上げる。

②ものを活かすために、にんじん舎の例で考えれば

○養鶏の場合

取り組みの方向	食品残渣を餌にすることで、収穫後農産（ホストハーベスト）や抗生物質のかかった配合飼料を使わない。そのため、安全安心嗜好のお客さんに好まれる。餌代の高騰に左右されない、コストを抑えた養鶏ができる。食品残渣を燃やさないことでCO2の削減に貢献する。																																										
問題点	産卵率が思ったほどあがらない。鶏品種の特性なのか、成鶏までの育成を含めた飼い方の問題なのか、それとも食品残渣を利用した餌の問題なのか。																																										
分析対象	食品残渣利用の発酵飼料 原料内訳																																										
一検体 09 / 2 / 10	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>重量比</th> <th>理想値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">タンパク質</td> <td>魚のあら</td> <td>11%</td> <td rowspan="4">6.5</td> <td rowspan="4">2.0</td> </tr> <tr> <td>鶏</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>鶏ガラ</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>おから</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">穀類</td> <td>麹くず</td> <td>5%</td> <td rowspan="3">1.8</td> <td rowspan="3">6.5 +生残飯3.60%</td> </tr> <tr> <td>パン</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>小麦粉</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">粗糠類</td> <td>米ぬか</td> <td>7%</td> <td rowspan="2">1.7</td> <td rowspan="2">1.5</td> </tr> <tr> <td>野菜屑</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>卵から</td> <td>3%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>鶏ガラ</td> <td>7%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				重量比	理想値	タンパク質	魚のあら	11%	6.5	2.0	鶏	2%	鶏ガラ	7%	おから	45%	穀類	麹くず	5%	1.8	6.5 +生残飯3.60%	パン	7%	小麦粉	6%	粗糠類	米ぬか	7%	1.7	1.5	野菜屑	10%		卵から	3%				鶏ガラ	7%		
			重量比	理想値																																							
タンパク質	魚のあら	11%	6.5	2.0																																							
	鶏	2%																																									
	鶏ガラ	7%																																									
	おから	45%																																									
穀類	麹くず	5%	1.8	6.5 +生残飯3.60%																																							
	パン	7%																																									
	小麦粉	6%																																									
粗糠類	米ぬか	7%	1.7	1.5																																							
	野菜屑	10%																																									
	卵から	3%																																									
	鶏ガラ	7%																																									
結果を元に技術のつぼ	発酵飼料の分析値について粗タンパク16%台は、産卵率に特に影響がない値と考えられる。会津地鶏は、もともと産卵率が低い鶏種であるのと同じに肉用鶏として品種改良されているので、粗脂肪が高いことが体脂肪の付着をまねき、産卵率を落とすことを考えられる。餌の発酵、ヒナ、鶏の育成等、つぶさな観察が今後のカギを握る。																																										

取り組みの方向	配合飼料を使わないため、薬剤がフンに添加せず、安全安心な肥料である。
問題点	にんじん舎の発酵鶏糞肥料を使うことで、野菜花がよく育つ、野菜が甘くなると聞くが、実際肥料成分の分析をしていない。敷物の量、鶏糞の量等製造過程に修正はいらぬのか検証したい。
分析対象	09/春販売予定発酵鶏糞肥料（特殊肥料） ・06/春成鶏 50羽の鶏365日排糞 20キロ×50羽 敷物の量 籾殻 500%
一検体 09 / 2 / 10	・07/春発酵ハウスへ 4度発酵切り返し ・08/春発酵鶏糞肥料
結果を元に技術のつぼ	高い肥効が期待できる肥料と考えられる。今後は一定の間隔で、製品の成分分析をし、変動幅を把握した品質管理に努める必要がある。またこの肥料を活かす使い方をしっかり消費者に示す事が大切である。

○BDF燃料の場合

取り組みの方向	化石燃料で燃やされる食廃油をBDF燃料に変え、化石燃料の代わりにディーゼルエンジン車で使うことで、CO2を削減する。 BDF燃料そのものは、カーボンニュートラルな燃料でかつ、酸化硫黄物をださないなど環境に優しい。原油高に直接影響を受けない。コスト削減。
問題点	捨てられる食廃油を原料とする場合、食廃油の質（植物性油の種類や汚れ具合酸化度）によって、精製されるBDFの質や量に差がでる。にんじん舎では、収集した食廃油の前処理で不純物を取り除き、廃油の質を一定化することに努めている。リスクの高い冬場は、汚れのないバージンオイルに近い原料で精製に取り組み、ウインタリングのあと、結晶化した不純物を遠心分離機で取り除き、最後に流動点降下剤を使用している。にもかか

○ひとを活かす

- ・適材適所、仕事の責任
- ・仕事の構造化と工程化

この仕事の良さは この仕事の強味は 体を張った外仕事	課題は 変化に対応できる 構造化工程化	仕事の構造化、工程 経営スキルアップ研修 ジョブコーチ研修	作業場の構造化 作業工程表 作業配置
----------------------------------	---------------------------	-------------------------------------	--------------------------

1 仕事場モデル作成委員会での検討事項

①ひとを活かす取り組みの考え方（法人理念）と進め方

<p>「力いっぱい仕事に取り組みしっかり稼ぐ」（就労B型パンフレット） 捨てるには、まだまだもったいない自分を奮い立たせる仕事がある。 みんなが同じである必要はない。 自分一人にやれることなど限りがあっても力を出し惜しみせず、 みんなが持ち味を發揮したとき、大きな仕事に立ち向かう力がきっと生まれる。 「まんざら捨てたもんじゃないね。」そういわれる作業所をめざして。</p> <p>「障がいの重い人たちと豊かな日中活動をつくりだす」（生活介護パンフレット） 体、元気？心、平和？ 夜ぐっすり眠れ、朝さわやかに目覚めること。 食事を楽しみに、おいしく食事がいただけること。 没頭できる何かがあること。そして一人じゃないってこと。 人はこれで、ささやかな幸せを感じ、一日を終えることができるのではないのでしょうか。 一日の活動が疲労感や緊張感や空腹感を。そして穏やかに心地よく、ホットできる時を。 体、元気！心平和！</p> <p><u>四季折々の天気の中、野外での体を使った、生き物相手の仕事に取り組むことで、 五感で働くことを感じる。</u> <u>適材適所の配置と支援の工夫によって、仕事の間であてにされる戦力になる。</u></p>
--

高工賃を支給する視点から

数のない商品←人を活かさず生産量が上がらないのはなぜ

←にんじん舎の取り組みの実際モデルで課題にせまる。

個々に合った支援をすることで、ミスロスが減り不必要なコストを減らす

←にんじん舎の取り組みの実際モデルで課題にせまる。

ひとを活かすことができているのか。

適材適所の配置か、やれる状況をつくれるのか、ミスロスを減らす工夫があるか。

そのために、仕事場の構造化と作業の工程化に取り組んだ。（わかりやすい、動きやすい状況）

個々に応じた構造化、工程化であるために

個々の状況を正しく把握する←にんじん舎独自のスケールを

②具体的に取り組むなかみと進め方の検討確認

利用者との仕事の現場に第2次産業の生産管理手法、経営資源の節約の視点

○工程分析とは、構造化とは、資料による学習（ジョブマッチングと職場のアセスメント）

○現場職員による工程分析表の作成

○作業現場の構造化の実際

○職員間での意見交換

○鈴木氏による工程化、構造化の実際の指導

職員に必要な視点

○適材適所の職員配置と責任

「何とかする気」「気づく力」「行動するPDCA」を磨きたかめながら部署責任を（プロ意識・ミスロスをなくす）果たす。

○報告、連絡、相談の徹底

必要な部署に、必要な時を逃さず、必要な中身を「報告、連絡、相談」する仕組みをつくり、個々が徹底することで、組織機能がミスロスなく動く。

○確かな将来構想づくりを総力戦で

責任は一人一人にある。ワークショップ方式で全員参加の将来構想づくりに取り組む。

○高工賃を支給するために **にんじん舎からの提案**
 ・私たちの将来構想（事業計画）「もったいないSプロジェクト」

人を活かす ものを活かす	提案 1000羽養鶏を軸に	行政委託・企業支援	環境エネルギーフェア
確かな実践を	地産地消 地域密着 農商工連携	食品リサイクル法 再生利用業者への道 2000羽養鶏	研修報告会 報告書

1 仕事場モデル作成委員会での検討事項

- ①高工賃を支給するための考え方と取り組み内容（もったいないSプロジェクト）
- にんじん舎は工賃向上支援事業を受け、経営的視点で指導をうけながら5年間の事業計画を作成している。
 - 増羽による1000羽養鶏で生産量のアップと顧客販売戦略にもとづき商品のバリエーションを増やす。
 - その戦略のポイントは、地産地消、地域密着、農商工連携。参加型の視点と環境教育の視点。「食品残渣を活かした循環型養鶏」を軸にした「食廃油を活かしたBDF燃料製造」「廃棄有機物を活かした土作り農業」の取り組みで力を培う。
 - 高工賃支給（特例子会社、就労A）のため、新事業へ（再生利用業者）←食品リサイクル法が接着剤に→企業、行政と対等な関係をつくるに値する道を探る。
- ②具体的に取り組むなかみと進め方
 地域、行政、企業へのにんじん舎の取り組みの発信と助言指導の集約そして、今後の取り組みのネットワークづくりのために以下の事業への参加や開催をした。

ふくしま環境エネルギーフェアへの参加
 ←県民・行政・企業へ取り組みをプレゼン(来年度以降も継続)
 日時 2008年12月12日(土)13日(日)
 場所 郡山市ピックパレットふくしま

研修報告会の実施
 ←学び、報告し、助言指導を受け、今後の取り組みに活かす。
 多くの人とネットワークを作り、推進の糸口を見つける。
 県内多くの作業所は下請け作業所←不況による仕事量の減少と単価の引き下
 もの作り作業所は←商品の質、種類、量に課題←どう解決していくのか
 地産地消・地域づくり・農商工連携から学ぶ→仕事のヒントみつけませんか
 日時 2009年3月7日(土)
 場所 福島県農業総合センター
 参加者 就労系福祉作業所、企業、行政、学校
 なかみ 基調講演「食と農」ビジネスで地域づくり 西川和明福島大学教授
 パネルディスカッション「地産地消・地域づくり・農商工連携に学ぶ」
 鮫川村「手まめ館」 本郷まさ子さん
 ゆうきの里東和 菅野正寿さん
 あぶくまロマンチック街道 浅田正文さん
 にんじん舎 和田庄司
 コメンテーター 西川和明さん
 コーディネーター 菅野寛さん

2 「高工賃を支給できる仕事の開発と仕事場の実際」に向け取り組みの中から学んだこと

- ①ふくしま環境エネルギーフェアから 主催者発表来場者数 20,551人

私たちの取り組みの背骨は「ひとを活かす・ものを活かす」 (パネル、スライドショー)
 メイン展示物**家庭用生ごみ処理機「HAIKEIKUN」ただでお分けいたします!**
 ・一羽の鶏は4人家族から出される生ごみ700gを食べ美味しい卵を産む。
 ・産卵率の落ちた処分される鶏でもちゃんと生ごみを処理してくれる。卵を産みながら。

ふくしま環境エネルギーフェアへの参加から学んだこと

- ①自分たちの取り組みの柱を確認できた。
- ②異業種からの学びと交流ができたことは、今後の拡がりに大きな影響となる。
- ③自分たちの取り組みの柱を、私たちのストーリーを、商品を、周囲の人に伝える力を磨く機会となった。
- ④**家庭用生ごみ処理機「HAIKEIKUN」**に人が集まった。子どもたちが珍しそうにかごをのぞき、お父さんお母さんと話しをしている。おばあちゃんが、家でも昔は、庭先に放して鶏を飼っていたよ。餌は買わなかったなあ。残飯と雑草やミミズを食ってたなあと懐かしそうに話している。
 - ・まさしく懐かしい昔のたまごを生産する。
 - ・残飯＝不衛生のイメージを払拭する。さっきまで口に入っていたもつとも安心できる餌。
 - ・収穫後農薬(ホストハーベスト)がかかった配合飼料より発酵の技術を使った食品残渣飼料を。
 - ・見学者さんにしっかり伝わる環境整備を。質素であっても整理整頓・清掃清潔。
- ⑤私たちはの取り組みは家庭用生ごみ処理機の延長線上にある。現在500台(羽)使用。
- ⑥今後もストーリーを広める機会を持ち、かつ全職員がストーリーを語る力を磨く。

②研修報告会の実施

参加者数 61名

地産地消・地域づくり・農商工連携に学ぶ

ひとを活かす・ものを活かす

障がいを持つ人に高工資を支給できる仕事の開発と仕事場のヒントを

- ・不況による下請け作業の仕事量の半減と請負単価の引き下げ
- ・ものづくり作業所も商品の質・量・販路開拓に多くの課題
- ・「地産地消、地域づくり、農商工連携」に学ぶ。仕事のヒント見つけませんか

日時 午前11時より 仕事場モデル作成委員・作業所職員・中小企業診断士・行政等によるにんじん舎事業計画「もったいないSプロジェクト」のプレゼンテーションをおこなう。

午後1時より 研修報告会
就労系福祉事業所、行政、中小企業診断士、企業参加

研修報告会から学んだこと

基調講演

- ①一次産品をどうするのか→JAへ収入小 直販へ収入中 加工販売へ収入大
観光(作物収穫型・料理提供型)へ収入大
- ②地域資源→付加価値をつける(商品・文化)(話題づくり)→自分たちで売る
- ③そのままでは出さない→地域でバリューチェーンをつくる

パネルディスカッション

- ①手まめ館のスタートは高齢者の医療費を減らすことからスタートした。大豆をつくって日銭を稼いでもらう。村が買い上げる。それによって病院でなく畑で体を動かしてもらう。
- ②手まめ館で売るのは、高齢者を中心に買って食べてもらう。すべて健康にいい商品だから。それがしだいに拡がって遠くからくる人や息子や孫に送るギフトが始まった。
- ③ゆうきの里東和のスタートは、荒れた桑畑をこのまま子どもたちに引き継ぎたくないという思いだった。地域産品としての桑の再利用は、桑茶。加工することで一次産品がどんどん付加価値商品を生んでいく。できるなら自分たちで加工していく。地域で加工していく。
- ④桑パウダーによる商品の拡がり「桑ようかん」「桑カステラ」「桑飴」「桑サブレ」「桑おからパン」「桑食パン」「桑のてのべめん」「桑葉アイス」「桑の実アイス」「桑の実ベリージュース」企業連携。
- ⑤直売所は直売所のみでならず。「商品を売る」「一次産品を加工する」「料理を提供する」「体験交流する」でなければならない。
- ⑥浅田さんのレポートから「本物を求める消費者は農家と直接つながりたいと思っている、自身の供給量を知っている」「身の丈にあった規模、大規模化と多品目少量生産の二極化軸足をどっちに」「安全安心そして美味しい」「ネットでさえ顔が浮かぶ関係がすべて、農業体験はつながりを継続して意味がある」
- ⑦今後のにんじん舎へ 工賃をあげるためには、利益を上げる。利益を上げるには収入を増やすか(手間にかかる物・珍しいもの・やりたがらないもの)コストを下げる。(無駄、ミスロスはないか、生産管理手法や4S) 2000羽はその結果を分析後再検討。